

発刊にあたって

神奈川県自然環境保全センターは、森林を中心とした自然環境の保全と再生を推進するため、企画から事業実施、普及啓発、研究の部門を備えた中核機関として、2000 年度に創設されました。2010 年度には県庁組織の再編により、水源の森林づくり事業と分収林管理の部門が加わり、県内の森林等自然環境の保全と再生について、より一体的に取り組む組織となりました。

本県では、1999 年の「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」の改正によって創設された特定鳥獣保護管理計画制度に則って 2003 年に神奈川県ニホンジカ保護管理計画を策定し、多くの関係者の協力のもとで事業に取り組んできました。この度発行する「自然環境保全センター報告 第 11 号」は、第 2 次神奈川県ニホンジカ保護管理計画に基づく 2007 年度から 2011 年度までの 5 年間の取組とその成果を中心に編集しました。

保護管理計画に基づいて、これまでに、丹沢大山国定公園の特別保護地区等植生が劣化している地域における植生回復のためのシカ管理捕獲等、様々な取組を実施してきました。その結果、管理捕獲をした地域ではシカの密度が低下し、場所によって植生回復の兆しが現われているところも出てきています。しかしながら、管理捕獲を実施していない場所では植生劣化が進むなど、丹沢全体としては自然植生の劣化が継続しています。また、1997 年度から水源の森林づくり事業において人工林で間伐や広葉樹林で受光伐を進めていますが、シカの採食圧を一因として、思うように施業地で林床植生が増加しないという状況もみられています。

こうした課題を踏まえ、県は、2012 年に第 3 次神奈川県ニホンジカ保護管理計画を策定し、2012 年度から森林施業する地域内でシカの個体数調整などのシカと森林の一体的管理の新たな取組を開始しています。

本号の特集では、シカと森林の一体的管理の根拠となる水源の森林づくり事業のモニタリング結果や、水源林で先行的に実施したシカ行動特性調査の報告を掲載いたしました。

また、特集に加えて、当センターが県民やボランティアと協働により取り組んでいる活動の報告として「丹沢大山の水場の水質調査結果（2012 年度）」と「神奈川県自然環境保全センターに救護された傷病鳥獣の記録（2011 年度）」も併せて掲載しております。

本特集号が、県民と行政、更には、シカによる自然植生の衰退や林業被害が起きている他地域においても役立つことを期待しています。当センターでは、今後とも自然環境の保全と再生に関わる業務や研究内容の充実に努めるとともに、成果や業績につきましては、本報告書以外にもホームページなどで紹介しておりますので、併せてご活用いただくとともに、ご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、本号で報告する各取組にあたって、多くの皆様の御協力をいただきましたことに厚くお礼申し上げます。

平成 25 年 3 月

神奈川県自然環境保全センター所長 益 子 篤